

空前の反対世論ふみにじり自民・公明が違憲立法の暴挙！しかし、これからです。撤廃めざして世論さらに大きく！

憲法をふみにじる秘密保護法は撤廃を！



この法律は、「特定秘密」の指定が無制限に広がること、国民から見たら何が秘密かも秘密にされること、一般国民も監視・処罰対象となること、その目的が国民の目、耳、口をふさいで日本を海外で戦争する「国」につくりかえることであることが明らかになっています。

法案は成立しましたが、この法律ばかりは絶対に許すわけにはいきません。国民主権、基本的人権、平和主義という憲法の基本原則を踏みにじる秘密保護法は、撤廃するしかありません。



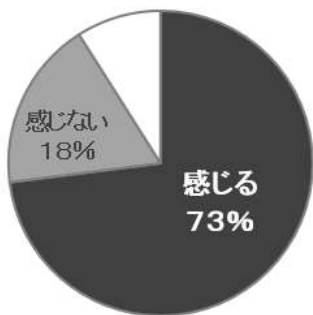
6日深夜の参院本会議で反対討論する日本共産党の仁比聡平議員

自民・公明が強行

自民・公明は6日深夜、参議院本会議で秘密保護法案の採決を強行し、稀代の悪法が可決・成立しました。日本共産党は満身の怒りをこめて、この暴挙を糾弾します。本会議で反対討論をしたのは日本共産党の仁比聡平議員だけでした。

危険な違憲立法

秘密保護法の運用に不安を感じるか
(朝日新聞7日調査)



撤廃しかありません、世論さらに大きく

この秘密保護法をめぐっては、国民の平和と民主主義を求めるエネルギーが発揮され、短期間のうちに反対の声とたたかいの輪が広がりました。成立後もさらに反対の声が広がり、特定秘密保護法に反対する学者の会」の反対声明賛同者は3500人を越えました。

日本共産党は、今後とも国民とともに、撤廃めざす新たなたたかいに全力で奮闘する決意です。